

令和6年度 関市プラネタリウム年間計画

プラネタリウム投影

	日付	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目	テーマ
1	5/4(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	19:00★	太陽系46億年の歴史
2	5/5(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
3	6/15(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	19:00★	宇宙の広さは
4	6/16(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
5	7/27(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	19:00★	夏の星座と星座物語
6	7/28(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
7	8/10(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	19:00★	ペルセウス座流星群直前解説
8	8/11(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
9	8/24(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	19:00★	隕石はどこからやってくるか
10	8/25(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
11	9/21(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	18:30★	見えるか紫金山・アトラス彗星
12	9/22(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
13	10/26(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	18:30★	彗星とはどんな星
14	10/27(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
15	12/7(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	18:30★	来年1月の火星大接近について
16	12/8(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		
17	1/18(土)	10:00	11:10	13:30	15:00	18:30★	宵の空に見える惑星について
18	1/19(日)	10:00	11:10	13:30	15:00		

★ 天体観望会兼ねる

市民天体観望会

	日付	時間	観望テーマ
1	5/4(土)	19:00~20:30	初夏の星座を見つけよう
2	6/15(土)	19:00~20:30	月(月齢8.9)を見よう
3	7/27(土)	19:00~20:30	夏の三大角を見つけよう
4	8/10(土)	19:00~20:30	月(月齢6.0)・夏の三大角を見よう
5	8/24(土)	19:00~20:30	夏の星雲・星団を見よう
6	9/21(土)	18:30~20:00	土星を見よう
7	10/26(土)	18:30~20:00	土星・秋の星雲・星団を見よう
8	12/7(土)	18:30~20:00	木星・土星を見よう
9	1/18(土)	18:30~20:00	金星・火星・木星・土星を見よう

投影テーマの概要

5月4日・5日 太陽系46億年の歴史

太陽系は、太陽とそのまわりをまわる天体などでできています。私たちの住んでいる地球は、一番内側の水星から数えて3番目の惑星です。今から46億年前に誕生したと考えられていますが、どのような歴史をたどって現在の姿になったのでしょうか。地球の歴史も含めて解説します。

6月15日・16日 宇宙の広さは

今から137億年前に宇宙が誕生したと考えられています。それ以来、宇宙はどんどん大きくなっていますが、本当の大きさがどのくらいなのかは、はっきりわかっていません。今のところ、137億光年のところまでしか観測できないからです。宇宙がどのくらい広いのか考えてみましょう。

7月27日・28日 夏の星座と星座物語

夏の夜空では、明るい3つの1等星がつくる夏の大三角が目につきます。星空の良く見える場所では、その間を天の川が流れていることもわかります。このうちの2つは七夕の星で、おりひめ星・ひこ星としても知られています。世界各地には、星にまつわるたくさんの物語がありますが、これらの夏の星たちにまつわる星座物語を紹介します。

8月10日・11日 ペルセウス座流星群直前解説

毎年8月の中旬頃に、流れ星がたくさん見えます。これをペルセウス座流星群といいます。今年は8月12日の深夜に流れ星が最も飛ぶと考えられています。月明かりがあると、暗い流星が見えませんが、今年は最も飛ぶ時間帯に月が西に沈んでしまうので、好条件と考えられています。この流星群の見方などについて解説します。

8月24日・25日 隕石はどこからやってくるか

隕石とは、宇宙から降ってきた石です。空から落ちてきて地上で見つかります。落ちてくるときの速度は飛行機の100倍もあり、空気との摩擦で熱くなり、落ちてくる間に星のように明るく輝きます。多くの隕石は、落ちてくる間に燃え尽きますが、地上に落下した時の衝撃で、クレーターを作るものもあります。隕石はどこからやってくるか、その性質なども含めて解説します。

9月21日・22日 見えるか紫金山・アトラス彗星

彗星とは、尾が伸びた姿からほうき星とも呼ばれる天体です。発見者の名前で呼ばれます。2023年1月に紫金山天文台（中国南京市）と南アフリカにあるATLAS(アトラス)望遠鏡がそれぞれ発見した彗星は、紫金山・アトラス彗星と名付けられました。2024年10月に明るさが最大になり、肉眼で見えると予測されています。太陽に近いところを通過したのち、立派な尾を引く姿を見ることができるともかもしれません。大変珍しい、この彗星について解説します。

10月26日・27日 彗星とはどんな星

先月に引き続き、紫金山・アトラス彗星のその後を中心に、彗星とはどのような天体なのかを解説します。

12月7日・8日 来年1月の火星の大接近について

火星の地球への最接近は、2年2か月ごとに起こります。2025年1月12日が次の最接近です。その時の地球と火星の距離は9、608万キロです。この時期、宵の東の空に明るく見える火星について解説します。

1月18日・19日 宵の空に見える惑星について

1月のこの時期には、宵の空に金星・火星・木星・土星の肉眼で見える惑星のほかにも、望遠鏡で見える天王星・海王星も姿を見せています。これらの惑星が同じ空に見える機会は珍しいものです。これらの惑星について解説します。